

感謝録

不破 満雄兄	近沢 武兄	加納 幸子姉
小坂 るみ姉	三縄 博兄	三縄 都美子姉
坂田 淑姉	下竹 博兄	下竹 寛子姉
下竹 祐三郎兄	下竹 由美子姉	武井 里花姉

Scroggins 由紀牧師

記事: 消息

* 過ぎにし聖日(12月8日)

一 由紀牧師の説教は、“ザカリヤへのメッセージ”と題してルカによる福音書1章8-13節からでした。長い間子供がなかった祭司ザカリヤが宮で奉仕をしていた時、突然天の御使いが現れて、男の子が与えられるという預言をしました。しかし彼は年をとっており、素直に預言を信じなかったために、しばらく口が利けなくなっていました。神は、私たちが諦めてしまった願いをも覚えて、私たちが予期しない時にかなえてくださるお方です。

一 聖書研究は、ローマ人への手紙14章18-23節からでした。パウロは、食べ物のことについて人をさばいたり、つまづかせないように、各自がそれぞれ確信をもって生きることを教えています。信徒として私たちが平和に役立つこと、互いの徳になることを追い求めることが出来ますように。

一 礼拝後お茶の時間に、クリスマス礼拝のプログラムを皆で討議してドラフトを作りました。

一 礼拝の後の ミッショントリップ・ランチ に 日本語部から大勢で出席して一つのテーブルを囲みました。

* 武井里花姉がブラジルへ旅行中のため、鈴木義兄が12月15日、22日、29日の3日曜日、礼拝の音楽を担当して下さいます。

* 12月15日(日) 12:30pm 主会堂
全会員の特別集会があり、議題は次の2項目です。

1. 2014年度予算案の討議と票決。
2. "Publicity Committee" を設立するため Constitution を amend すること。

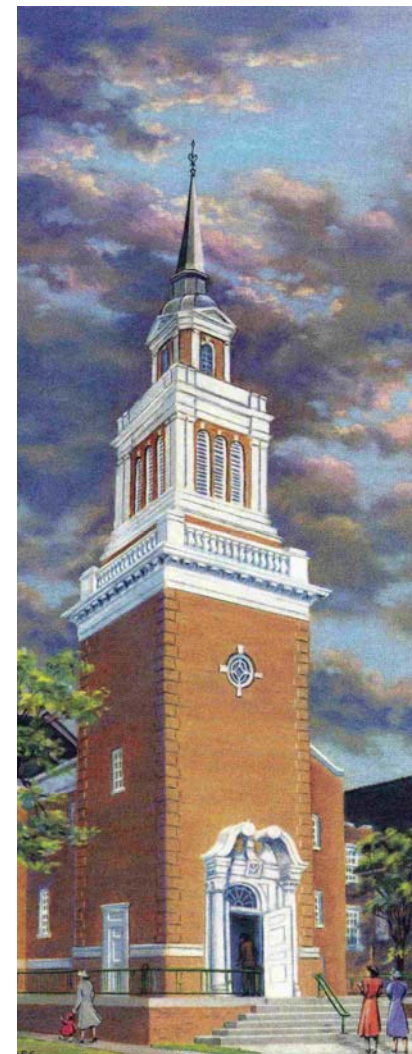
会員は必ず出席されるようお願い致します。

* 12月22日(日) 11:00 am 南部チャペル
待降節第四日曜日にあたりますが、この日各国語部のクリスマス礼拝が行なわれます。

* 12月24日(火) 9:00 pm 主会堂
Christmas Eve Worship (クリスマス・イヴ 礼拝)

発行: 2013年 12月 10日 ノースショア・バプテスト教会日本語部
スクロギンズ 由紀牧師 (Rev. Yuki Scroggins)

Tel: 773-728-4200 Ext.26 Email: yscroggins@northshorebaptist.org



週報

第3464号

2013年 12月 15日

ノースショア バプテスト教会 日本語部
North Shore Baptist Church Japanese Congregation

5244 North Lakewood Ave. Chicago, IL 60640
Tel: 773-728-4200 Web: www.northshorebaptist.org

待降節第三日曜日礼拝順序

2013年 12月 15日 午前11時 南部チャペル

前奏		鈴木 義兄
頌栄	539	
開会の祈り		Scroggins 由紀牧師
主の祈り		一同
交読文	43	ルカ伝 1章 (マリヤの歌)
賛美歌	103	"牧人ひつじを 守れるその宵"
祈りの時		Scroggins 由紀牧師
聖書拝読		下竹 寛子姉
		ルカによる福音書 1章 26-33節
賛美歌	111	"神の御子は今宵しも"
説教		"マリヤへの預言" Scroggins 由紀牧師
賛美歌	2篇 216	"み使いうたいて 牧人つどえば"
献金		加納 幸子姉
報告		
頌栄	541	
祝祷		Scroggins 由紀牧師
後奏		鈴木 義兄
(礼拝終了:奉仕開始)		

祈禱・聖書学習会 午前9時45分 109号室
ローマ人への手紙 15章 指導: Scroggins 由紀牧師

全教会の特別集会 12:30pm 主会堂
* 2014年度予算の討議と票決
* Publicity Committee の設立のための憲法改正

今週の聖句

イザヤ書 35章 1-10節 詩篇 146篇 5-10節
ヤコブの手紙 5章 7-10節
マタイによる福音書 11章 2-11節

憩いの場

”神が与えられる季節“

“天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。” (伝道の書3章1節)

感謝祭も終わり、この間、巷で初めて“ホワイトクリスマス”の音楽を聴きました。私たちがクリスマス、と考えるとき、もしかするとこの歌のようなクリスマスを想像する事が多いかもしれません。家族がいて、プレゼントがあつて、暖炉が燃えている、というようなイメージです。しかし、そのようなイメージはメディアによって作り上げられたものであり、アメリカのようなキリスト教国はクリスマスを大事にするがゆえに、かえってそのイメージにはまってクリスマスの聖書的な意味を見失っているようです。しかし、信徒としてクリスマスの意味は、この世の傾向からは離れたところにある気がします。信徒になってからの数多くのクリスマスを思い出すとき、今でも印象にあるのは、学校のアパートに友達と二人で残された、という奇想天外にクリスマスらしくなかったクリスマスです。その年に限って誰からも呼ばれず、従来のクリスマスらしく過ごさなかったために、逆に思い出深いものになりました。今までそれほど親しくなかった留学生の友達とよき時間が持て、かえって神のご恩恵を深く感じられよう気がします。クリスマスの行事はすばらしいものですが、今年のクリスマスはその中に、本当の主の福音が記されますようにお祈りします。この時期、神のすべての業には時がある、とした伝道の書を覚えて、ふさわしいときに御子をこの世に与えてくださった神に感謝し、何のためにクリスマスを祝うのか、考えつつ過ごせますように。(スクロギンズ由紀)